

合理的配慮

公益社団法人 子どもの発達科学研究所
副所長・主任研究員 大須賀 優子



© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

1

障害者権利条約と 障害者差別解消法

 © Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

2

障害者権利条約と障害差別解消法

障害者権利条約

- 2006年12月に国連総会で『**障害者の権利に関する条約(障害者権利条約・略称)**』が採択。
- 2007年9月28日、日本は国連本部で署名。
- 障害者基本法の改正(2011年 8月)、障害者総合支援法の成立(2012年 6月)、障害者差別解消法の成立および障害者雇用促進法の改正(2013年6月)と**国内法を整備**する。
- 2013年11月19日の衆議院本会議、12月4日の参議院本会議において、全会一致で障害者権利条約の締結が承認。
- これを受けて**2014年1月20日**、吉川元偉国連代表部大使が、障害者権利条約の**批准書**を国連に寄託し、日本は140番目の締約国になった。

 © Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

3

障害者権利条約と障害差別解消法

障害者差別解消法

- **障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律**(平成25年法律第65号)とは、**障害者基本法**の基本的な理念に則り、全ての障害者が、障害者でない者と等しく、**基本的人権**を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを踏まえ、**障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項、行政機関等及び事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置等を定めることにより、障害を理由とする差別の解消を推進し、もって全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的とする、日本の法律である(法律第1条)。**
- **障害者権利条約**を批准するための国内法。この流れの中に、**インクルーシブ教育**もある。

 © Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

4

障害者とは？(障害者の定義)

- 障害者差別解消法では、「障害者」とは、
障害者手帳をもっている人のことだけではない。
- 身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人(発達障害や高次脳機能障害のある人も含まれます)、その他の心や体のはたらきに障害(難病等に起因する障害も含まれます)がある人で、障害や社会の中にあるバリアによって、日常生活や社会生活に相当な制限を受けている人すべてが対象。(障害児も含まれる。)

障害者差別とは？

- ① 不当な差別的取り扱い
障害者差別解消法では、企業や店舗などの事業者や国・都道府県・市町村などの行政機関等が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
これを「不当な差別的取扱いの禁止」といいます。

5

6

障害者差別とは？

- ① 不当な差別的取り扱い
障害者差別解消法では、企業や店舗などの事業者や国・都道府県・市町村などの行政機関等が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
これを「不当な差別的取扱いの禁止」といいます。
 - 障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスの提供を拒否すること
 - サービスの提供に当たって場所や時間帯などを制限すること
 - 障害のない人には付けない条件を付けること など

障害者差別とは？

- ① 不当な差別的取り扱い
障害者差別解消法では、企業や店舗などの事業者や国・都道府県・市町村などの行政機関等が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
これを「不当な差別的取扱いの禁止」といいます。
 - 障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスの提供を拒否すること
 - サービスの提供に当たって場所や時間帯などを制限すること
 - 障害のない人には付けない条件を付けること など

等しい者を異なって扱う型の差別

7

8

障害者差別とは？

② 合理的配慮の不提供 合理的配慮とは

障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。

(障害者権利条約第2条)

障害者差別とは？

② 合理的配慮の不提供 合理的配慮とは

事業者は、その事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去について必要かつ合理的な配慮をしなければならない。

(障害者差別解消法第8条)

令和6年4月1日に事業者の「合理的配慮の提供」が**義務化**
※個人事業主やボランティア活動をするグループなども含む → 私立学校も

9

10

障害者差別とは？

② 合理的配慮の不提供 合理的配慮とは

事業者は、その事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去について必要かつ合理的な配慮をしなければならない。

(障害者差別解消法第8条)

②合理的配慮の不提供は

異なるものを異なって扱わない型の差別

障害の社会モデル

11

12

障害の社会モデル

合理的配慮 (Reasonable Accommodation)

- 1990年のADA(障害のあるアメリカ人法)で一躍有名になった概念で、障害のある人の場合、環境整備や配慮等がないと能力自体が発揮できないことがあるので、能力評価の前提として、必要な配慮を行うのは社会的責務であるということです。

障害の社会モデル

- Accommodationとは、「配慮」というよりも、「変更および調整」と訳すべき言葉。

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

障害の社会モデル

障害の医学モデル

障害の社会モデル

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

13

14

障害の社会モデル

障害の医学モデル

目標: 治癒・よりよい適応と行動変容

障害(disability)は、機能障害(impairment)から生じる

障害の社会モデル

目標: 共生社会の実現・多様性の包摂

障害(disability)とは機能障害(impairment)と環境との相互作用

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

障害の社会モデル

多数派向けにデザインされた社会環境の中で、少数派の身体を持つ人々が経験する困難こそが障害である(熊谷晋一郎, 2021)

目指すのは: 共生社会の実現・多様性の包摂

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

15

16

障害の社会モデル

教室・学校も

目指すのは：共生社会の実現・多様性の包摂

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 17

インクルーシブ教育

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 18

17

18

インクルーシブ教育

インクルーシブ教育

1944(平成6)年
ユネスコ・サラマンカ声明
「万人のための教育
(Education for All)」

1979
分離教育 養護学校義務制

2005
発達障害者支援法

2007
国連障害者権利条約署名

2012 中教審
「インクルーシブ教育システム」

2016
障害者差別解消法施行の施行
改正障害者雇用促進法の施行

2024
改正障害者差別解消法
合理的配慮提供の義務化

- 分離教育: 障害児と健常児をわけて教育する
- 統合教育: 障害児と健常児を一緒に教育する
- インクルーシブ教育: 障害のあるなしにかかわらず、一人一人の教育的ニーズに対応する

統合教育も、障害児と健常児をわけている

障害のあるなしは、簡単にわけきれものではなく、連続体であることがわかってきたため

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 19

インクルーシブ教育

共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進(報告)(文部科学省, 2012)

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education」から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 20

19

20

インクルーシブ教育

共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進(報告)(文部科学省, 2012)

合理的配慮

障害のある子どもが、他の子どもと平等に教育を受けられるように、学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの。

基礎的環境整備

「合理的配慮」の基礎となるものであって、障害のある子どもに対する支援について、法令に基づき又は財政措置により行う教育環境の整備のこと。

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 21

インクルーシブ教育

共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進(報告)(文部科学省, 2012)

合理的配慮と基礎的環境整備の関係

合理的配慮

合理的配慮の基礎となる環境整備 (基礎的環境整備)

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 22

21

22

インクルーシブ教育

共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育の推進(報告)(文部科学省, 2012)

合理的配慮と基礎的環境整備の関係

合理的配慮

- 事後的
- 個別的
- 対話的

基礎的環境整備

- 事前的
- 普遍的
- 一方的

≡ UD

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 23

ICFと合理的配慮

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 24

23

24

ICFと合理的配慮

ICF(国際生活機能分類)

障害とは環境との相互作用である

健康状態 → ICD(国際疾病分類)※1
疾病, 外傷, 等

生活機能

心身機能・身体構造
精神機能
運動機能
視覚, 聴覚, 等

活動
実行状況 (している) 能力 (できる)
歩行, 各種ADL, 家事, 職業能力, 等

参加
実行状況 (している) 能力 (できる)
就労, 趣味, スポーツ, 地域活動, 等

環境因子
物的環境: 福祉用具, 建築, 等
人的環境: 家族, 友人, 等
社会環境: 制度, サービス, 等

個人因子
年齢, 性別, 民族, 生活感, 価値観, ライフスタイル, 等

国際生活機能分類 ICF
(International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF, 200, WHO)

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

ICFと合理的配慮

ICF(国際生活機能分類)

障害とは環境との相互作用である

健康状態 → ICD(国際疾病分類)※1
疾病, 外傷, 等

生活機能

機能障害
精神機能
運動機能
視覚, 聴覚, 等

活動の制限
歩行, 各種ADL, 家事, 職業能力, 等

参加の制約
就労, 趣味, スポーツ, 地域活動, 等

環境因子
物的環境: 福祉用具, 建築, 等
人的環境: 家族, 友人, 等
社会環境: 制度, サービス, 等

個人因子
年齢, 性別, 民族, 生活感, 価値観, ライフスタイル, 等

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

25

26

ICFと合理的配慮

機能障害	活動の制限	参加の制約

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

ICFと合理的配慮

機能障害	活動の制限	参加の制約
足が動かない	移動が難しい	運動会に参加できない

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。

27

28

ICFと合理的配慮

機能障害	活動の制限	参加の制約
足が動かない	移動が難しい	運動会に参加できない

個人因子と環境因子によって生じる

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 29

ICFと合理的配慮

環境を整えることで、障害を限りなく減らして行こう、というのが「合理的配慮」の考え方です。

機能障害	活動の制限	参加の制約
足が動かない リハビリが必要	移動が難しい 車いすを使用 スロープを作り、 段差をなくす	運動会に参加できない 車いすで参加可能な 競技を準備

合理的配慮の提供

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 30

29

30

ICFと合理的配慮

機能障害	活動の制限	参加の制約
脳の機能の障害。	① 言語理解が困難で、授業の活動ができない。 ② 心の理論、メタ認知の難しさで、友達の気持ちやルールがわからない。	① 集団学習の場にいられない。 ② 友達との遊びに誘ってもらえない。学級遊びに参加できない。

「合理的」な配慮の提供には、正しいアセスメントが必要

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 31

まとめ

© Child Developmental Science Research. | Confidential | 許可のない転載を禁止します。 32

31

32

まとめ

まとめ

- 子どもの人権を守ることは、子ども支援の始まり。
- 特に、障害のある子どもの人権を守るのは、学校の重要な役目。
- インクルーシブ教育への対応は、待ったなし。
- 合理的配慮を合理的にするには、正しい知識が必要になる。
- 合理的配慮がなされれば、問題行動に対して予防的に働く可能性が高い。
- 多様性が包摂される社会の実現のために、
学校が果たす役割は大きい！